

# 「3つのアレゴリー」

The Three Allegories

三枝 泰之  
Yasuyuki, Saegusa

## 想像界 l'imaginaire リマジネール

意味とイメージ・像がつくる世界。たとえば「日常」「平和」「不幸」も漠然とイメージできるが、正確な描写は困難である。1bit や 1pixel は人間の想像力から産まれた実態のない最小限の単位である。

2012年発表：10センチビエンナーレ「1bit」。非物質的なイメージである。ここではコンピュータのデータ最小単位1ビットをイメージする。1ビットは、0か1かの2通りのうちのどちらであるか、という情報を持つものである。

## 現実界 le Réel ル・レエル

それはハードウェアのような世界、シンボル化できない、「像にも記号・言語にもならないもの」誰も訪れた事がない物の領域、性的関係・死への欲動である。

2007年発表：02. 小さな立体の祝祭：この焼け焦げた木は阿蘇の野焼きの後の木である。死を象徴する焦げた木に、最小限の立体である正四面体の木枠が重なるように誕生している。天井にはアイデア界のように立体の枠組みが鑑賞者とインタラクティブに投影される。

le sinthome

## 象徴界 le symbolique ル・サンボリック

言葉・記号(シニフィアン)で構成された〈他者〉が存在する場所。人間が創りあげた「言葉・法律・歴史」である。

2016年発表：05. 起源：ウェディングドレス(処女性)は、ラカンのいう象徴界を表す、言葉、歴史、法律のシンボルが縫い付けてある。そのスカートの中の光に照らされているのは、まだ意味づけられていない地球や三次元世界の基本構造、立体、正四面体、球体である。20160322

